



12月を振り返って

新年あけましておめでとうございます。4年生の皆さんはいよいよ教員デビューまで残り3か月です。卒論の準備もいろいろと忙しいと思いますが、4月のデビューに向けて今できる準備にもしっかりと取り組んでいきましょう。教職課程センターではそんな4年生の皆さんの不安を取り除くための取り組みも行っています。お時間のある時にぜひ教職課程センターまでお越しください。12月3日（土）に実施した「合格体験発表会」では11名の4年生の皆さんに発表していただきました。皆さんそれぞれ限られた時間の中で様々な工夫をしながら準備を進めてきた様子がわかったことと思います。また12月10日（土）の「先輩の話の聞く会」および「都教委による採用選考説明会」では実際に教育の現場で活躍している先輩方の生の声を聴くことができ大変有意義でした。また東京都の教育政策や東京都が求めている教師像についても理解が深まったことと思います。今の教育現場にはまだまだ様々な矛盾や理不尽さが残っています。働き方改革も道半ばです。しかし教育の現場には若い力が絶対に必要です。子どもたちの「わかった！」「できた！」の声を励みにしながら皆さんが成長してくれることを心より期待しています。3年生の皆さんは、採用選考まで残り半年余りとなりました。教育実習期間を除くと、準備にかけられる時間は意外に短かったりします。3年生の内に1次試験対策、論文対策をできるだけ進めておきましょう。私も全力で支援いたします。

1月の予定

1月には教職課程センター主催のイベントはありません。月末には秋学期の試験がありますので、3年生の皆さんはそちらに集中していただきたいと思います。並行して論文の添削は随時受け付けていますので、できるだけ書いて添削を受けるようにしてください。すでに昨年末までに10回以上書いている人もいます。回数を重ねていくことで、論文の「型」が身につくにつれて、様々な教育課題に対する対応の引き出しが増えていきます。論文作成力は一朝一夕で身につくものではありません。しっかりと数稽古を積んでいきましょう。4年生の皆さんのカウンセリングも随時実施いたします。予約は不要ですので、気軽に来室してください。

論文作成について（その2）

前号では論文の構成についてお示しましたが、今月号では、論文で記述すべき内容について説明していきます。採用選考の論文には、「こう書かなくてはいけない！」というルールはありません。ただ、**採点するベテラン管理職の心に刺さる内容＝「この受験生だったら、生徒を任せても大丈夫だろう！」に仕上げていかなければなりません。**ここでは、そんなベテラン採点者の心に刺さる書き方と、書くべき内容についてお示していきます。自己満足の論文ではなく、読み手であるベテラン採点者を納得させられる内容を目指しましょう！



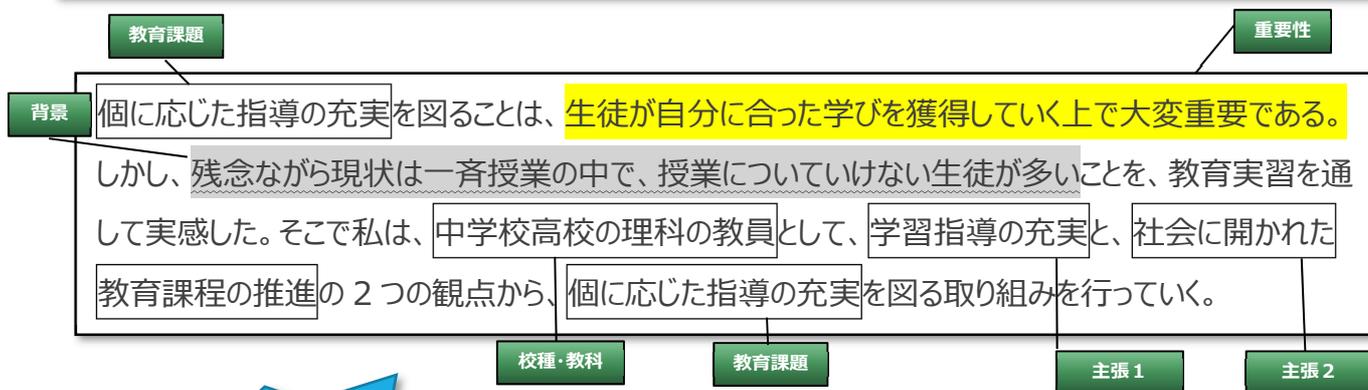
論文は教職に対する「ラブレター」である！

教職課程センターに登録している皆さんは、「絶対に教師になりたい！」という強い思いをもっていることと思います。何と言っても一番大切なのは「教師になって子どもたちと一緒に学んで、未来を担う人材づくりに貢献したい！」という強い思い【マインド】です。しかし論文作成に関する様々な参考書を見ると「この項目を、この順番で、このように書きなさい」的な【スキル】の話を多く見かけます。確かにスキルは必要ですが、教師を目指すという強いマインドがないと、スキルはしよせん付け焼刃にすぎません。論文作成に取り組む前に、今一度自分が教師を目指そうと決意した「原点」に立ち戻って、自分の中に確固とした【マインド】を築いておいてください。マインドが有るか無いかは、論文を読んでいけばその端々に感じられます。私を含め多くの採点者はこの「受験生のマインドが文面から感じられるかどうか」を合否判定の最大の規準にしています。

マインドを感じさせる論文の構成【序論編】

- 与えられた事例や文章から「教育課題＝キーワード」を抜き出し、その教育課題を解決することの重要性を述べる。
- 教育課題が可決されていない背景について「残念な現状」の体験または伝聞について述べる。
- 校種・教科の教員として主張1・主張2の2つ視点から「教育課題」の解決に取り組む決意を表明する。

序論（前文）例 教育課題：個に応じた指導の充実（2022年東京都A問題）



ポイント解説！

- ✓ 教育課題で書き出し、教育課題の解決に取り組む、という決意表明で締めくくる。
- ✓ 最も大切な結論（最重要事項）を真っ先に述べる。（必ず一行目に記述する）
- ✓ 課題の背景（残念な現状）の体験・伝聞について述べる。（後に述べる解決策が引き立つ）
- ✓ 自分の校種・教科を記述する（立場を明確にする）
- ✓ 主張1と主張2（東京都の場合）の2つの視点で教育課題の解決に取り組む、と決意を示す。

課題の提示

残念な実態

解決への強い意志

以下次号

